

## 病院を受診された患者さまへ

当院では機関長の許可を得て、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名 (研究番号)	ロボット支援下腹腔鏡手術における術中炭酸ガス排出量の経時的变化と術後皮下気腫発生に関する後ろ向き調査 (研究番号：2010)
当院の研究責任者 (所属)	垣花学 (琉球大学大学院医学研究科麻酔科学講座)
他の研究機関および 各機関の研究代表者	なし
本研究の目的	近年、多くの腹部手術は炭酸ガスを腹腔内へ充満させた腹腔鏡手術となっており、低侵襲性により患者の術後経過が著しく改善していることから、琉球大学病院でも多くのこの手術が行われています。一方、ロボット支援下手術では術中視野確保や出血予防を目的とした高い気腹圧で手術を遂行することがあり、高気腹圧にともなう合併症として、皮下気腫や縦隔気腫の発生が危惧されます。炭酸ガスによる皮下気腫では炭酸ガス吸収量が増加することで肺からの炭酸ガス排出が増加することが予想されることから、今回は術中炭酸ガス排出量の経時的变化と術後皮下気腫との関連について後ろ向きに調査することを目的としています。
研究実施期間	2022 年 月 日 ~ 2023 年 7 月 31 日
調査データ(該当期間)	2019 年 1 月~2022 年 8 月の期間の情報
研究の方法 (利用する試料・情報等)	●対象となる患者さま 2019 年 1 月 1 日から 2022 年 8 月 31 日の期間に琉球大学病院においてロボット支援下腹腔鏡手術を受けられた患者さま ●利用する試料・情報 電子カルテ上に記録された年齢、性別、身長、体重、術中体温、手術時間、麻酔時間、術中呼気炭酸ガス濃度、術中分時換気量、術後レントゲンによる皮下気腫・縦隔気腫の有無
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	得られた情報の他の研究機関への提供：なし
試料・情報の二次利用	得られた情報の二次利用：なし

個人情報の取り扱い	研究において対象者の情報を扱う際は、個人情報とは関係のない符号または番号を付して匿名化する。論文作成時、学会発表時には個人が特定できる情報は一切用いない。また、同意の範囲外において情報の利用を行わない。
本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ先	電話：098-895-1189 担当者：垣花 学（琉球大学麻醉科）
備考	